

題主述文に関する一考察

～中国語との対照比較を中心に～

莊 美 娟

1、考察対象及び目的

まず、題名について簡単な説明をして置く。本稿では、「は」を伴う名詞句「主題名詞句」＋「が」を伴う名詞句「ガ格名詞句」が、単一の述語と結ぶ文、即ち「XはYがZ」という形式を取る文のことを『題主述文』と呼ぶことにする。ただ、全ての「XはYがZ」構文を考察するのはあまりにも範囲が広過ぎるので、本論では、《句を含まない文》に限定することにした。

日本語の題主述文に対して、中国語には“主謂謂語句”という構文様式がある。“主謂謂語句”というのは、主述ととのったものが述部をなす構文のことである。形態上では、日本語における『題主述文』も中国語における“主謂謂語句”も同じ構文様式を取っている。しかし、日本語で『題主述文』を持って表現するものは、中国語では全て“主謂謂語句”で表現するのではない。本稿は日本語の『題主述文』に視点を据え、それに対応する中国語の構文様式との対照比較を試みるのが目的である。

2、考察方法

本稿では、述語の品詞別によって『題主述文』を『題主述文形容詞文』、『題主述名詞文』、『題主述動詞文』の三つに大別し、そして、それぞれについて更に下位分類を施した。それを表にまとめると次のようになる。

属性形容詞文：①「XのY」に言い換えられるもの

②「XのY」に言い換えられないもの

感情形容詞文：③感情形容表現

④欲求形容表現

⑤嗜好形容表現

名詞文：⑥「XのZ」に言い換えられるもの

⑦「XのY」に言い換えられるもの

⑧どちらにも言い換えられないもの

動詞文：⑨「ノ」類（「ノ」の主題化による『題主述文』。以下同）

⑩「ニ」類

⑪「ヲ」類

⑫「デ」類

⑬「ヘ」類

⑭慣用句を含むもの

⑮能力を表す表現

⑯存現を表す表現

⑰必要を表す表現

⑱感情表現

『題主述形容詞文』の場合は、「格名詞句」の役割の違いによって下位分類をし、『題主述名詞文』の方は、『主題名詞句』に対する関係の持ち方に着目した

下位分類であり、⑨～⑬の『題主述動詞文』は、『主題名詞句』が主題化する前の役割によって下位分類を施したのである。

次は『題主述形容詞文』及び『題主述名詞文』の分析にあたって用いられる措定/ 指定の概念について要約して置こう。

2-1 措定/ 指定の概念

措定/ 指定の概念は、意味構造の観点からコピュラ文^①を分類するのによく使われる概念であるが、コピュラ文における措定文 (pre-dication sentence) / 指定文 (specification sentence) の区別は曖昧であると、三上章氏 (1953) を始め、上林洋二氏 (1988)、西山佑司氏 (1990) にも指摘されている。ところが、面白いことに、三上氏は曖昧だと指摘しながらも、氏自身の準詞文 (コピュラ文) の分類には、措定/ 指定の概念規定を明確にしていない。それ故に、ここでは、氏の論述に触れないことにする。そして、上林氏と西山氏の論考は、コピュラ文の分類及びその概念規定に限ってみると、かなり近似している。西山氏は、上林氏の諸規定を一部修正、更に、指定文/ 措定文の区別を、「象は鼻が長い」のような非コピュラ文の分析にまで適用させたことがあるから、ここでは、西山氏の論を中心に紹介したいと思う。

西山氏は、日本語のコピュラ文「AはBだ」を、意味構造上、次の四つに分類した。

a、措定文 「AはBだ」

「A」で指示される指示対象について、それが、「B」で表される性質・属性を有している、と叙述する。(Bが名詞句の場合、属性名詞句である。)

① コピュラ文とは、述語が「名詞句」+「コピュラ」で構成されている文を言う。ここでは、「だ」でコピュラを代表させる。

例：「あの犬はかしこい」

「田中は学生だ」

b、倒置指定文 「AはBだ」（＝指定文「BがAだ」）

「A」という述語を満足する値をさがし、それを「B」の指示対象によって指定（specify）する。（「A」は1項述語（変項名詞句）である）

例：「かしこいのは太郎だ」

「この火事の原因は漏電だ」

c、倒置同一性文 「AはBだ」（＝同一性文「BがAだ」）

「A」の指示対象を「B」の指示対象でもって同一と認定する。

例：「こいつは、昨日公園の入口であったあの男だ」

d、倒置同定文 「AはBだ」（＝同定文「BがAだ」）

「A」の指示対象が「B」の指示対象（カテゴリー）の例示になっている。（「B」はtype指示の名詞句であり、カテゴリーを表す）

例：「山田さんは、何でも反対するひとだ。」

このうち、b、c、d、に関しては、意味を同じくする「BがAだ」という倒置以前のかたちに対応しているとしている。

氏は上述した措定/ 指定の概念を「象は鼻が長い」構文の分析に利用し、従来の通説は誤りだと力説している。従来の通説では、「象は鼻が長い」は、「象の鼻が長い」における「象の」が主題化されてできた文であるとされている。氏は、「象は鼻が長い」には意味の異なった二つの解釈が可能であることを指摘した。

①指定文：象はどこが長い、ということそれは（首ではなく、しっぽでもなく）鼻だ。

つまり、「長い」という1項述語を満足する値を「象」という領域内でさがし、それを「鼻」の指示対象によって指定しているわけで、《領域限定付きの指定文》である。

②措定文：「象」は「鼻が長い」という属性を有している。

そして、「象は鼻が長い」を《領域限定付きの指定文》として読む場合、主題化される以前に何か基底形があり、それに主題化変形が適用されたわけではなく、もともと深層構造のレベルですでに「象は」が主題として現存していると論じられている。

以上は、措定/ 指定についての規定を見てきた。次は、形容詞文→名詞文→動詞文の順を追って、中日両語の比較対照に入りたいと思う。

3、『題主述文』における中日両語の構文様式の比較対照

3-1 題主述形容詞文

3-1-1 題主述属性形容詞文

まず、文例から見てみよう。

「XのY」に言い換えられるもの：

- | | | | |
|-----------------------|---|---|--------|
| (1) 象は鼻が長い。…………… | ○ | ◇ | 措定 |
| (2) 山田さんは語感がすどい。…………… | ○ | ◇ | 措定 |
| (3) 今日は天気がいい。…………… | ○ | ◇ | 措定 |
| (4) チーズは消化がはやい。…………… | ○ | ◇ | 措定 |
| (5) その車はスピードが速い。…………… | ○ | ◇ | 措定 |
| (6) この本は値段が高い。…………… | ○ | ◇ | 措定 |
| (7) 辞書は種類が多い。…………… | ○ | ◇ | 措定 |
| (8) 夏はビールがうまい。…………… | ○ | ◇ | 措定/ 指定 |

「XのY」に言い換えられないもの：

- | | | | |
|-------------------------|---|--|--------|
| (9) 辞書は広辞苑がいい。…………… | × | | 指定 |
| (10) 奥さんの家出は君が悪い。…………… | × | | 指定 |
| (11) 魚は鯛がいい。…………… | × | | 指定 |
| (12) 彼の出世は細君の力が大きかった。…… | ○ | | 措定/ 指定 |

(13) 今度の芥川賞は君が有力だ。…………… ○ 措定/ 指定

○：中国語でも同じく題主述文で表現するもの

×：中国語では題主述文で表現しないもの

◇：中国語でも「主題のガ格」に言い換えられるもの

以上の例から、次のようなことが観察される。

①、「XのY」に言い換えられる題主述属性形容詞文は、指定の読みが取れないわけではないが、ごく自然な解釈は指定の意味ではなく、措定の意味である。

逆に「XのY」に言い換えられないものは、指定の解釈の方が自然である。

②、「XのY」に言い換えられる題主述属性形容詞文は、中国語では題主述文の形式で表現もでき、しかも「X的Y」にも言い換えられる。

③、中国語では題主述文で表現せられるものは、措定文に限る。指定の意味として読んだ場合は、中国語では、題主述構文を取らず、“是字句”になる（もちろん“是字句”以外の表現もできるが、いずれにしても、題主述構文を取らないことは確かである）。

3-1-2 題主題感情形容詞文

題主述感情形容詞文について、感情形容表現、欲求・嗜好形容表現、の二つに分け、日本語文及び中国語訳を並べて見ることから論を進めよう。

感情形容表現：

(14) 私は 君が 羨ましい。 (14a) 我羡慕你。

(15) 私は 彼の母が 恋しい。 (15a) 我愛慕他的母親。

(16) 私は 朝が つらい。 (16a) 我覺得早起很痛苦。

(17) 私は 犬が こわい。 (17a) 我怕狗。

(18) 私は あの子が 不憫だ。 (18a) 我很可憐那個孩子。

(18b) 我覺得那個孩子很可憐。

(19) 私はそれが残念だ。 (19a) 我對這件事情感到遺憾。

(20) 私はその言葉がうれしい。(20a) 我很高興聽到那些話。

欲求・嗜好形容表現：

(21) 私はお金が欲しい。 (21a) 我想要錢。

(22) 私は映画が見たい。 (22a) 我想要看電影。

(23) 私はリンゴが好きだ。 (23a) 我喜歡蘋果。

(24) 私は野球が嫌いだ。 (24a) 我討厭棒球。

中日両語における感情形容表現の相違について、結論を表にまとめて置こう。

日本語	中国語
感情形容詞文で表現する	動詞文で表現する
文要素順序：「XはYがZ」	「X Z Y」
文構造：「SOV」	文構造：「SVO」
人称制限有り	人称制限無し

日本語の題主述感情形容詞文は、中国語では原則的に動詞文で言い表すようである。ただ、感情形容表現には、例えば(16)(18)(19)(20)等は、中国語では次のように、「OS+覺得(聽了)很+形容詞」、言わば“賓語倒装”(賓語の倒置)でも表現し得る所に注意されたい。

(16b) 早起、我覺得很痛苦。

(18c) 那個孩子、我覺得很可憐。

(19b) 這件事情、我覺得很遺憾。

(20b) 那些話、我聽了很高興。

賓語倒置による感情表現は、ごく自然な中国語表現であり、形式上、題主述構文を取る。しかし、(14)(15)(17)などは、賓語を倒置すると、自然的表現とは言いがたい。

?(14b) 你、我羨慕。

? (15b) 他的母親、我愛慕。

? (17b) 狗、我怕。

これは、どうしてであろう。寺村氏の《一時的な気の動き》と《能動的な心の動き》が、究明する手掛かりとなるのではないかと思うが、これには十分な調査が必要なので、今後の課題にする。

欲求・嗜好形容表現は、賓語の倒置もできるが、倒置された表現は、《対比》の意味合いが強く、対比する場合でなければ自然的な表現とは言えないようである。

3-2 題主述名詞文

題主述名詞文のうち、「XのZはYだ」に言い換えられるもの、「XのYはZだ」に換言できるもの、どっちにも言い換えができないもの、の三種類のものが見られる。

3-2-1 「XのZはYだ」に言い換えられるもの

(18) この列車は 高雄が 終点だ。

(19) あの芝居は こいつが 主役だ。

(20) あの時は 太郎が 優勝者だ。

(21) 花子は バナナが 好物だ。

(22) 洋子は お茶くみが 仕事だ。

(23) 私は 土木工学が 専門だ。

これらの文は「XのZはYだ」に言い換えると、

(18') この列車の終点は 高雄だ。

(19') あの芝居の主役は こいつだ。

(20') あの時の優勝者は 太郎だ。

(21') 花子の好物は バナナだ。

(22') 洋子の仕事は お茶くみだ。

(23') 私の専門は 土木工学だ。

のようになる。これらの言い換えられた文は、いずれも倒置指定文であることは共通している。倒置指定文には、倒置する前の形：指定文「YがXのZだ」、が対応している。つまり、次のような文が対応しているのである。

(18'') 高雄が この列車の終点だ。

(19'') こいつが あの芝居の主役だ。

(20'') 太郎が あの時の優勝者だ。

(21'') バナナが 花子の好物だ。

(22'') お茶くみが 洋子の仕事だ。

(23'') 土木工学が 私の専門だ。

西山氏(1990)では、倒置指定文「AはBだ」或いは指定文「BがAだ」において、指定された要素Bは主題化を受けないが、Aが複合表現である場合は、Aの一部を主題化することができるという規則が立てられた^②。この規則に従えば、指定文の(18'')～(23'')は、Aの部分に当たる「XのZ」は複合表現であるから、「X」を主題化することができるということになる。そうすると、次のようになる。

(18'')～(23'') 「YがXのZだ」→→「XはYがZだ」

このことから、題主述名詞文「XはYがZだ」の内「XのZはYだ」に言い換えられるものは、指定文「YがXのZだ」の述語名詞句「XのZだ」中の連体修飾要素「X」が主題化して派生されたものである、という結論が導かれる。

3-2-2 「XのYはZだ」に言い換えられるもの

前小節では、「XのZはYだ」に言い換えられるものを見て来た。本節は「X

② 『日本語学論説資料』27(三)所収「『カキ料理は広島が本場だ』構文について——飽和名詞句と非飽和名詞——」西山佑司

のYはZだ」に言い換えられるものに論を移る。題主述名詞文「XはYがZだ」の内、「XのYはZだ」に言い換えられるものは、倒置指定文における叙述名詞句中の連体修飾要素が主題化して派生されたものが殆どである、というのが結論である。先ず、前節の倒置指定文を振り替えてみよう。

(18') この列車の終点は高雄だ。→→(24) この列車は終点が高雄だ。

(19') あの芝居の主演はこいつだ。→(25) あの芝居は主演がこいつだ。

(20') あの時の優勝者は太郎だ。→→(26) あの時は優勝者が太郎だ。

(21') 花子の好物はバナナだ。→→→(27) 花子は好物がバナナだ。

(22') 洋子の仕事はお茶くみだ。→→(28) 洋子は仕事がお茶くみだ。

(23') 私の専門は土木工学だ。→→→(29) 私は専門が土木工学だ。

(24)～(29)のような題主述名詞文になると、主題名詞句「X」との関与は、述語名詞句「Z」ではなく、ガ格名詞句「Y」となり、「XのYはZだ」に言い換えられるようになるのである。

しかし、「XのYはZだ」の対応文を持つ題主述名詞文の内、倒置指定文によって派生されたものではない文もある。次の例がそれである。

(30) 林さんは息子さんが軍人だ。

(30)は「XのYはZだ」に言い換えられるが、「Y」と「Z」の位置を変えたりすることはできない。それは、(30)は措定文であるからであろう。

3-2-3 「XのZ」「XのY」のどちらにも言い換えられない題主述名詞文

このタイプの題主述名詞文としては、次のようなものがある。

(31) 海外基地は アメリカが 先だ。

(32) 本の値段は どこでも同じなのが 普通だ。

(33) 受賞は 今度が 初めてだ。

これらの文は次のように言い換えられる。

(31') 先に 海外基地を築いたのは アメリカだ。

(32') 一般には 本の値段は どこでも同じなのだ。

(33') 初めて受賞したのは 今度だ。

このことから、(31)～(33)のような文における「述語名詞句」は、≪叙述名詞句≫として働くのではなく、副詞的働きを果たしている、と言えるのではないかとと思われる。(31)(33)のような文について、草薙裕氏(1985)では^③、

“述部が「最初」「最後のX」など唯一という意味を持つ名詞、あるいは、
唯一という意味を表す語が修飾語になっていることが条件となる。”

又、三上(1963)では、次のように述べられている。

“もっとも連体法+no waが名詞+waに縮まりもするので、
いたるところ短絡の問題にぶつかられるが。”

短絡というと、「ボクハ ウナギダ」文が想起される。一体、三上氏の「名詞は」に縮まれたのであるか、或いは奥津敬一郎氏のいう「ダ」による述語の代用であるのかは、興味深い問題であるが、その追求は今後の課題にする。

3-3 中日両語の構文の対照

まず、今まで見た日本語の題主述名詞文の例を中国語の訳と対照してみよう。

3-3-1 指定文の主題化によって派生したもの

(18) この列車は 高雄が 終点だ。 ?(18a) 這班列車、高雄是終點。

(18b) 這班列車、終點是高雄。

(19) あの芝居は こいつが 主役だ。 ?(19a) 那部戲、這傢伙是主角。

(19b) 那部戲、主角是這傢伙。

(20) あの時は 太郎が 優勝者だ。 ?(20a) 那時候、太郎是優勝者。

(20b) 那時候、優勝者是太郎。

(21) 花子は バナナが 好物だ。 ?(21a) 花子、香蕉是最愛。

③ 『朝倉日本語新講座 4 文法と意味Ⅰ』p6

(21b) 花子、最愛是香蕉。

(22) 洋子は お茶くみが 仕事だ。 ? (22a) 洋子、倒茶是工作。

(22b) 洋子、工作是倒茶。

(23) 私は 土木工学が 専門だ。 ? (23a) 我、土木工學是專門。

(23b) 我、專門是土木工學。

3-3-2 倒置指定文によって派生したもの

(24) この列車は 終点が 高雄だ。 (24a) 這班列車、終點是高雄。

(25) あの芝居は 主役が こいつだ。 (25a) 那部戲、主角是這傢伙。

(26) あの時は 優勝者が 太郎だ。 (26a) 那時候、優勝者是太郎。

(27) 花子は 好物が バナナだ。 (27a) 花子、最愛是香蕉。

(28) 洋子は 仕事が お茶くみだ。 (28a) 洋子、工作是倒茶。

(29) 私は 専門が 土木工学だ。 (29a) 我、專門是土木工學。

3-3-3 措定文

(30) 林さんは 息子さんが 軍人だ。 (30a) 林先生、兒子是軍人。

(34) この家は 窓が 南向きだ。 (34a) 這房子、窗子是向南的。

3-3-4 「XのZ」や「XのY」に言い換えられないもの

(31) 海外基地は アメリカが 先だ。 (31a) 最先築設海外基地的是美國。

(32) 本の値段は どこでも同じ (32a) 書的價格一般來講到哪裡
なのが 普通だ。 都一样。

(33) 受賞は 今度が 初めてだ。 (33a) 得獎這是第一次。

以上から、次のように推論できるのではないかと思う。

日本語における題主述名詞文には、四種類がある：

a、指定文から派生された題主述名詞文

b、倒置指定文から派生された題主述名詞文

c、措定文から派生された題主述名詞文

d、「XのZ」や「XのY」に言い換えられない題主述文

この内、a b c は中国語でも題主述構文を用い得る、d は題主述構文で表現出来ないが、「Z」が副詞的働きをする点は日本語の場合と一致している。

ただ、中国語では、日本語の a と b のような、指定文・倒置指定文の対応形式がなく、倒置指定文の語順“X、Y是Z”の表現を用いるのが普通のようなのである。これは、「Z」が指定された要素であり、中国語では「是」の後に置くからであろう。

又、a b c は、中国語では「X」と「Y」の間に「的」を介した「X的Y是Z」も自然的な表現であるが、「的」を入れると、文の意味が変わり（名詞文の場合は、意味は変わらないと思うが、叙述される対象は違って来る）、文の構造も変わって“主謂謂語句”ではなくなってしまう^④。

3-4 題主述動詞文

一般の動詞文は、単なる事象叙述の表現であるのに対して、題主述動詞文は、特定の対象と特定の事象のかかわりに焦点を置いた表現である。題主述動詞文は、主題となる対象と、それとは独立の主体が関与する特定の事象との関連性を述べる文である。例えば(35')は一般の動詞文であり、単なる事象を叙述する表現である。そして、題主述動詞文(35)は、主題となる対象は「この絵」であるが、「描いた」と関与するのが「この絵」ではなく、それと別に独立の主体「次郎」である。

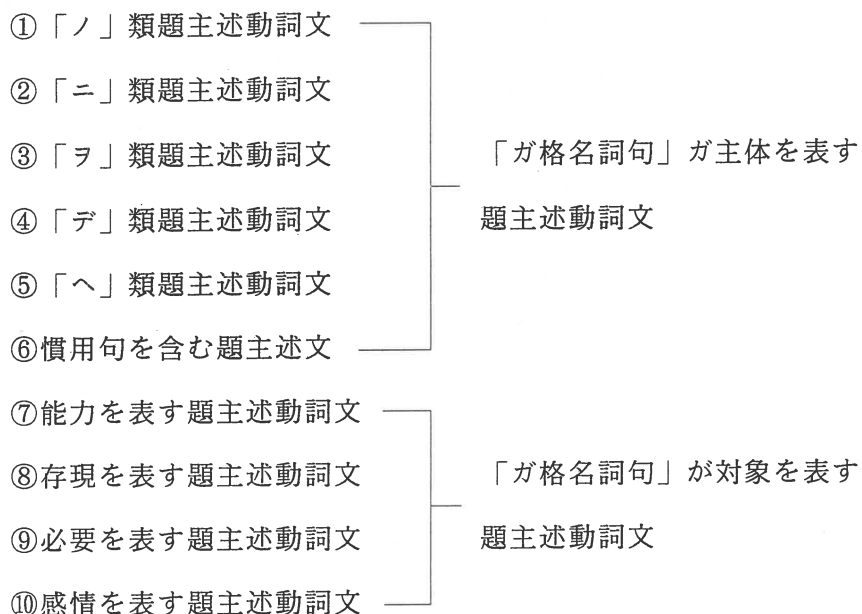
(35') 次郎が この絵を 描いた。

(35) この絵は 次郎が 描いた。

3-4-1 中日両語の構文の対照

ひとまず、日本語における題主述動詞文の下位分類を改めてまとめて置く。

④ <<語法研究和探索 2>> p76



次は、日本語文及び中国訳を並べて対照してみよう。

①「ノ」類

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| (36) 太郎は娘が結婚した。 | ? (36a) 太郎、女兒結婚了。 |
| | (36b) 太郎、他女兒結婚了。 |
| (37) 花子は親友が事故で
大けがをした。 | ? (37a) 花子、親友在車禍中
受了重傷。 |
| | (37b) 花子、她的親友在車禍中
受了重傷。 |
| (38) 山口さんは最愛の
花子さんが婚した。 | ? (38a) 山口先生、最愛的
花子小姐結婚了。 |
| | (38b) 山口先生、他最愛的
花子小姐結婚了。 |
| (39) 次郎は作品が入選した。 | ? (39a) 次郎、作品入選了。 |
| | (39b) 次郎、他的作品入選了。 |
| (40) 山田さんは飼い犬が死んだ。 | ? (40a) 山田先生、養的狗死了。 |
| | (40b) 山田先生、他養的狗死了。 |

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| (41) 山口さんは車が故障した。 | ? (41a) 山口先生、車子壞了。 |
| | (41b) 山口先生、他的車子壞了。 |
| (42) 私は傷が化膿した。 | (42a) 我、傷口化膿了。 |
| (43) 私は病気がなおった。 | (43a) 我、病好了。 |
| (44) 私は足が痺れる。 | (44a) 我、脚麻。 |
| (45) 横綱は右足が土俵から出た。 | (45a) 横綱、右脚踏出了賽場。 |
| (46) 日本は文明が進んでいる。 | (46a) 日本、文明很先進。 |
| (47) この筆は先がちびた。 | (47a) 這筆、筆尖禿了。 |
| (48) この木は若芽がもえだす。 | (48a) 這樹、新芽長出来了。 |
| (49) あの事は企画が立った。 | (49a) 那件事、企劃作好了。 |
| (50) その花は匂いが漂う。 | (50a) 那朵花、香味漂溢。 |
| (51) このクラスは男性がよくできる。 | (51a) 這個班、男生很行。 |
| (52) この会社は社員が過労になる。 | (52a) 這公司、員工都過勞。 |
| (53) その機体は後部に亀裂が
見つかった。 | × (53a) 那個機體、在後部發現
了龜裂。 |
| (54) 彼女の婚礼は私が仲人をした。 | (54a) 她的婚禮、我當媒人。 |

先ず、結論を表にまとめることにしよう。

	日本語	中国語
a	「XのYがZ」 ↓ 「XはYがZ」	文構造 “T、S V”
		文要素順序 “X、Y Z”
b	「Xの～ニYがZ」 ↓ 「Xは～ニYがZ」	文構造 “T、在～VO”
		文要素順序 “X、在～Z Y”
c	「YがXの～ヲZ」 ↓ 「XはYが～ヲZ」	文構造 “T、S V”
		文要素順序 “X、Y Z”

aは「ガ格名詞句」、bは「ニ格名詞句」、cは「ヲ格名詞句」中の連体修飾要素が主題化して派生されたものである。

a及びcは、中国語でも“主題＋主語＋動詞”の構文を用い得る（以下では上表のように、主題を“T”、主語を“S”、動詞を“V”のような記号で示す）。文要素の語順も“X、YZ”で、日本語文と一致している。ただ、aのうち、「X」が、有生名詞でしかも第二・三人称の場合、それが主題化された後、空所になった元の位置に、人称代名詞“他（的）”或いは“她（的）”、を補った方がより自然的な表現と考えられる。このような文は、“分指”又は“複指”を表す表現として“主謂謂語句”の一類とする中国語学者も少なくない。

bは、中国語では、“T＋V＋O”を用いるようである（“O”は目的語）。

②「ニ」類

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| (55) 東京は官庁が集中している。 | (55a) 政府機關集中在東京。 |
| | (55b) 東京、是政府機關集中的地方。 |
| (56) この傘は水がしみる。 | (56a) 這把傘、會漏水。 |
| (57) この紙がインクがにじむ。 | (57a) 這紙、會滲墨水。 |
| (58) その着物は汚れがついた。 | (58a) 那件衣服、弄髒了。 |
| | (58b) 那件衣服、有污點。 |
| (59) 少年の体は枯草の匂いが漂っていた。 | (59a) 少年的身體、漂溢著枯草的味道。 |
| (60) ニューヨーク（に）は観光客がよく行。 | (60a) 觀光客常到紐約去。 |
| | (60b) 紐約、是觀光客常去的地方。 |
| (61) その大学は太郎が留学した。 | (61a) 太郎是在那所大學留的學。 |
| | (61b) 那所大學、是太郎留學的地方。 |
| (62) 秋は色んな行事が続きます。 | (62a) 秋天、各種例行儀式接連不斷。 |
| (63) オヤツは枝豆が出ました。 | (63a) 上了毛豆當點心。 |

(64) あのことは興味がある。

(64a) (対) 那件事情、我有興趣。

「ニ」類題主述動詞文では、時間的な位置を表すもの〔(62)〕のみ、中国語でも、同じ題主述構文を用い得るようである。空間的な位置を表すもの〔(62)～(64)を除いた各文〕は、中国語では一般的には“T(=S)VO”構文で表現するであろう。ただ、空間的な位置を表す「ニ」のうち、「方向」とも読める「ニ」〔(55)(60)(61)〕は、中国語では“是字句”〔(55b)(60b)(61b)〕を用いることもあろう。

「として」の例(63)は、中国語にどう訳して良いか、適切に訳せないが、中国語では題主述構文に成り得ないと思う。

次は(64)のような、所有主が省略されて、「対して」の「ニ」が主題化したものは、中国語では、「対する」の意味を表す“対”の省略はありえるが、所有主の省略はありえない。所有主が省略されないため、題主述構文になる。ところが、「対して」の「ニ格名詞句」を必要とする所有表現は、所有主が省略されずに、主題として持ち出される場合、中国語では題主述構文ではなくなる。これについては、⑧の存現表現で検討する。

下表は以上をまとめたものである。

「ニ」類題主述動詞文	中国語の構文形式	文要素の順序
時間位置	“T、SV”	“XYZ”
方向以外の位置	“T(=S)VO”	“XZY”
方向	“SVO”	“YZX”
	“T是SV的地方”	“XYZ”
「として」	不明	不明
「対して」	“(対) T、S有V”	“XYZ”

③「ヲ」類

- (35) この絵は次郎が描いた。 (35a) 那幅畫、次郎畫的。
- (65) 京都は外国人がよく訪れる。 (65a) 京都、外國人常去旅遊。
- (66) あの書類は私が送って (66a) 那份文件、我已經寄了。
おきました。
- (67) 辞書は私が加藤さんに預けた。 (67a) 字典、我寄在加藤先生那兒。
- (68) 太郎は僕が説得する。 (68a) 太郎、我來說服。
- (69) 炊事は妹がします。 (69a) 炊事、妹妹負責。
- (70) この辞書はほとんどの学生が (70a) 這本字典、大部份的學
利用する。 生都使用。
- (71) その石器は民族博物館が (71a) 那個石器、民族博物館
保管している。 在保管。
- (72) 美空ひばりのレコードは (71a) 美空雲雀的唱片、太郎
太郎が持っている。 手上有。

直接目的語の主題化によって派生された題主述動詞文は、中国語では同じ題主述構文を用い得るようである。文中の要素の順序も、中日両語も一致している。

④「デ」類

- (73) この会社は社員が過労になる。 (73a) 這公司、員工都過勞。
- (74) 会場は余興が始まっている。 (74a) 會場開始了餘興節目。
- (75) あの辺りは五月に桜が (75a) 那一帶五月時開櫻花。
咲きます。
- (76) この商店街はスーパー建設 (76a) 這條商店街正在進行
反対運動が起こっている。 反建超商運動。
- (77) 東京はその映画が上映される。 (77a) 東京要上映那部電影。
- (78) ニューヨークは殺人事件が (78a) 紐約常發生殺人事件。
よく起きる。

(79) この接着剤は革がよくつく。 (79a) 這接着劑容易黏皮革。

(80) このおもちゃは子供が (80a) 這個玩具常使孩子受傷。

よく怪我をする。

「デ」類題主述動詞文は、中国語では原則として、題主述構文ではなく、“TVO”で表現するようである。しかし、(73a)のように題主述構文を取る文もある。(73)は「ノ」類の表現でもあり、文中における「主題名詞句」と「ガ格名詞句」は従属関係があり、中国語でも題主述構文で表現するのであろう。

⑤「へ」類

(50) 東京は官庁が集中している。 (50a) 東京、政府機關集中。

(50b) 政府機關都往東京集中。

(81) ハワイは観光客がよく行く。 (54a) 夏威夷、觀光客常去。

「へ」類題主述動詞文については、実例が多くないため、中日両語の表現形式における対応関係を一般化した規則にまとめることができない。ここで言えるのは、中国語も日本語と同じように、動作・作用の向けられる方向を示す名詞句の主題化が可能である。そして、主題化された名詞句は元の方向を示す機能が希薄になる（或いは失ってしまう）、という二点である。

⑥慣用句を含む題主述文

慣用句は、それを構成する要素の文字通りの意味から、慣用句として担う意味を予測することができない。慣用句の意味解釈には、それぞれの言語背景にある文化・社会とのかかわりが大きな影響を与えているため、慣用句についての対照研究は、文化や社会の角度からでなければ意味ないと思う。筆者には、それを処理しうるだけの能力も見識も持っていないから、慣用句についての対照研究は、文化言語学者や社会言語学者に譲りたいと思う。そして、慣用句を含む題主述文についての対照・比較も、省くことにする。

⑦能力を表す表現

- (82) 彼はその意味がわかる。 (82a) 他明白那意思。
(83) あの人はスキーができる。 (83a) 那個人會滑雪。
(84) 私は日本の新聞が読める。 (84a) 我能閱讀日本報紙。

能力を表す表現は、中国語では“SVO”構文を取るのは周知の通りである。ただ、これは、(82)～(84)のように、能力の持ち主が主題の位置に置かれた表現に限って言える。目的語を主題とした場合は、「ヲ」類題主述動詞文ではもう既に見たように、中国語でも題主述構文で表現する。又、次のような能力の持ち主が省略された場合も、中国語では、必ず題主述構文を用いるとは限らないが、用いることもできる。

- (85) この文章は意味が分からない。 (85a) 這文章、意思不明。
(86) ここは富士山がよく見える。 (86a) 這裡、富士山看得很清楚。

⑧存現を表す表現

- (87) 彼は子供が三人ある。 (87a) 他有三個孩子。
(88) 私は数学に興味がある。 (88a) 我對數學有興趣。
(89) 私は自慢話がある。 (89a) 我有自豪的故事。
(90) それはまずいという意見が (90a) 那件事情有負責面的
あった。 意見(存在)。

(87)(88)(89)のような、所有を表す表現は、能力を表す表現と同じように中国語も“SVO”構文で表現する。語順や所有主についての制約も能力を表す表現と同じである。ただ、「対して」の意味を表す「ニ格名詞句」を必須補語とした、例(90)のような文は、日本語では所有主が省略されうるが、中国語では省略できない。次の(91)は所有主が省略され、「ニ格名詞句」が主題化されてきた題主述動詞文である。この場合は中国語も題主述構文を用いるようになる。

- (91) あのことは興味がある。 (91a) 那件事情我有興趣。

存在を表す表現は、中国語では、題主述構文ではなく、“～有～” “～在～”で表現するようである。

⑨必要を表す表現

(92) 子供は愛が必要だ。

(92a) 孩子需要愛。

(93) あの件はお金がいる。

(93a) 那件事需要錢（来解决）。

⑩感情表現

(94) 私は故郷のことが思われる。(94a) 我思念故郷。

⑨と⑩は、中国語ではいずれも“SVO”構文で表現するであろう。

4、まとめ

日本語の『題主述文』は中国語の“主謂謂語句”とかなり近似しているとは言われているが、以上のように細かく分けて観察してみると、両語の構文様式においては随分開きがあるということが分かる。本稿は「主題名詞句」+「ガ格名詞句」+単一の述語、というふうに範囲を狭く限定しているため、『題主述文』全般を窺えることは未だ未だできない。これから、『題主述文』の全体像をはっきり彫り出すように、もっと広範に考察を重ねていきたいと思う。

参考文献

- sb-01 『日本語学論説資料 23 (三)』 「『は』助詞は所謂『陳述』を支配するに非ず」 青木伶子
- sb-02 『日本語学論説資料 26 (三)』 「体言述語文」 堀口和吉
- sb-03 『日本語学論説資料 26 (三)』 「名詞述語文『～は～です』の意味と機能に関する一考察」 市川保子

- sb-04 『日本語学論説資料 24 (三)』 「日本語の助詞ハとガの多重機能性」
伊藤武彦
- sb-05 『文芸言語研究 言語編』筑波大学 文芸・言語学系 1988
「指定文と指定文——ハとガの一面」上林洋二
- sb-06 『日本語文法の焦点』北原保雄 教育出版(株) 1984/ 初版
- sb-07 『日本文法研究』久野暉 大修館書店 1973/ 初版 1974/ 再版
- sb-08 『朝倉日本語新講座 4 文法意味Ⅱ』水谷静夫編 朝倉書店
1985/ 初版 「文法が担う意味」草薙裕
- sb-09 『現代中国語文法総覧(下)』劉月華等著 監訳者 相原茂
訳著 片山博士美等 くろしお出版 1991/ 1刷
- sb-10 『命題の文法』益岡隆志 くろしお出版 1992/ 3刷
- sb-11 『象は鼻が長い』三上章 くろしお出版 1960/ 1版 1987/ 17版
- sb-12 『日本語の構文』三上章 くろしお出版 1963/ 1版 1972/ 2版
- sb-13 『日本語の理論』三上章 くろしお出版 1963/ 1版 1971/ 2刷
- sb-14 『三上章論文集』三上章 くろしお出版 1975/ 初版
- sb-15 『現代語法序説』三上章 くろしお出版 1993/ 復刊第7刷
- sb-16 『現代日本語の構造』南不二男 大修館 1974/ 初版
- sb-17 「日本語助詞“ハ/ ガ”と中国語におけるその対応」峯谷秀美 東呉大
学碩士論文 1986年
- sb-18 『日本文法——主語と述語——』森重敏著 武野書院 昭40/ 初
- sb-19 『語彙論的統語論』仁田義雄 明治書院 昭55
- sb-20 『東京外国語大学 日本語学科年報』東京外国語大学外国語学部 日本
語学科研究室 1993「意味構造から見た平叙文分類の試み」新屋映子
- sb-21 『慶応義塾大学言語文化研究所記要』第17号
「指定文、指定文、同定文の区別をめぐって」西山佑司
- sb-22 『日本語学論説資料 27 (三)』 「『象は鼻が長い』構文について」

西山佑司

- sb-23 『日本語学論説資料 27 (三)』 「『カキ料理は広島が本場だ』構文について——飽和名詞句と非飽和名詞句——」 西山佑司
- sb-24 『文法と意味の間——国広哲弥教授退官記念論文集』 くろしお 1990
「コピュラ文における名詞句の解釈をめぐって」 西山佑司
- sb-25 『待兼山論叢 日本学編』 第15号 大阪大学文学部 1981
「『カキ料理は広島が本場だ』構文について」 野田尚史
- sb-26 『日本語文法セルフマスターシリーズ 1 はとが』 寺村秀夫編 野田尚史
著 1990/ 3 版
- sb-27 『姫路独協大学 外国語学部紀要 第 7 号』 1994年/ 1 月「現代漢語の
主述述語文について——主述述語の意味からのアプローチ——」 奥田寛
- sb-28 『いおゆる日本語助詞の研究』 奥津敬一郎等著 凡人社 1986 初版
- sb-29 『ボクハ ウナギダの文法ーダとノー』 奥津敬一郎 くろしお 1990/ 8 版
- sb-30 『講座日本語学 10 外国語との対照 I』 寺村秀夫他編 明治書院
昭57/ 初版 平成 3 / 5 版
「中国語構文論の基礎」 大河内康憲
- sb-31 「中日両語の対照研究——題述関係を中心に」 潘志堅 東呉大学碩士論文
1986 年
- sb-32 『日本語の文法の研究』 佐治圭三 ひつじ書房 1991/ 1 刷
- sb-33 『日本語学論説資料 27 (三)』 「日本語の大主語と主題」 杉本武
- sb-34 『中国関係論説資料 27 (二) 上』 「漢語における『主謂謂語句』
について(1)」 鈴木義昭
- sb-35 『日本語のシンタクスと意味 I』 寺村秀夫 くろしお出版
1982/ 1 刷 1993/ 11 刷
- sb-36 『日本語のシンタクスと意味 II』 寺村秀夫 くろしお出版
1991/ 1 刷 1992/ 3 刷

- sb-37 『日本語学論説資料 26 (三)』 「『は』と『が』を持つ文の二重主語について」池学鎮
- sb-38 《中國文法講話（修定本）》許世瑛 台灣開明書局 民國55年初版
民國81修/ 2版
- sb-39 《漢語語法》原著者 Li and Thompson 黃宣範譯 文鶴出版有限公司
民國72/ 初版
- sb-40 《漢語詞法句法論集》湯廷池 台灣學生書局 民國77/ 初版
- sb-41 《國語語法研究論集 全一冊》湯廷池 台灣書局 民國68/ 初版
- sb-42 《言語文字學》 1993年11月号 <現代漢語中“是”的詞性及用法淺探>
鄭獻芹
- sb-43 《言語文字學》 1993年1月号 <“是”字句研究述評>周有斌
- sb-44 《言語文字學》 1989年12月号 <也談主謂謂語句>侯友蘭
- sb-45 《現代漢語八百詞》 呂叔湘主編 商務印書館出版 1984/ 3刷
- sb-46 《語法研究和探索 2》 呂叔湘・朱德熙等著 中國語文雜誌社編
北京大學出版社<主謂語句的範圍>孟維智
- sb-47 《漢語語法論文集（增訂本）》 呂叔湘著 商務印書館出版
1984/ 1版
- sb-48 《實用現代漢語語法》 劉月華等編 外語教學與研究出版社1987/ 1版
- sb-49 《語文近著》<主謂謂語句舉例> 呂叔湘 上海教育出版社
1987/ 1版1刷
- sb-50 《中國語的文法》 趙元任著 丁邦新譯 中文大學出版社（香港）
台灣學生書局承印 1980/ 初版